

## 題 船員のスキルアップ（潜水訓練&江の島丸研修）

漁業調査指導船「ほうじょう」  
航海士 鶴島 渉

船はスクリュープロペラで水力を得て航行しますが、漂流ロープ等を巻き付けてしまい航行が出来なくなる時があります。そのような時には潜水除去をする必要があります。業務で潜水をするには「潜水士」という国家資格が必要なことから、私は今年の6月に潜水士免許を取得しました。

しかしこの免許、実は学科試験しかないのです。実技は訓練を重ねる必要があります、潜水訓練を開始する運びとなりました。今回のコラムでは、潜水訓練をはじめ船員のスキルアップのために行った研修内容をご紹介します。

### ① 潜水訓練

#### ◆訓練内容

潜水訓練の目的と重要性は上述の通りです。今年の7月から潜水訓練を開始し、以来1～2週間に1度の頻度で定期的に潜水訓練、潜水業務を行っております。具体的には以下のような内容を、訓練を通じて学び、徐々に実務を身につけております。

- ・船から海への入り方や上がり方
  - ・フィンを使用しての泳ぎ方
  - ・シュノーケルの使用法
  - ・ボンベを背負っての泳ぎ方
  - ・BC（浮力調整装置）の使用法
  - ・中性浮力の取り方（水中で浮き沈みせず中層でバランスを保つこと）
  - ・水圧の変化による耳抜きの手段
- など



写真：潜水訓練



写真：潜水調査

## ◆学び

資格取得には机上で学べる知識のみの習得で済んでしまいましたが、訓練を通じて知識・技術ともに実経験を積むことの大切さを学びました。水圧による身体への負担や水中での身体の動かし方のほか船上では分からなかった水中の危険も知ることができ、知識と技術両方を習得することの重要性を実感しました。継続的な訓練を積むことは技術の維持・向上につながるものだと感じました。

## ②「江の島丸」研修乗船

### ◆研修目的と内容

#### ◇研修目的

神奈川県船舶職員が配属となる拠点は 2 か所あります。現所属の漁業調査指導船「ほうじょう」でしか実務経験がない私は、今回経験を積むため他拠点での業務に参加する研修の機会をもらいました。

#### ◇研修内容

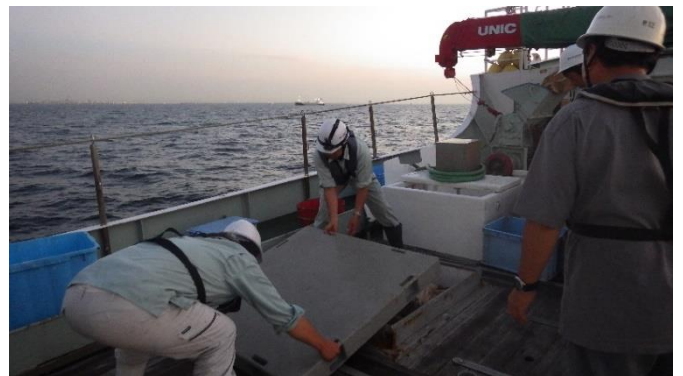
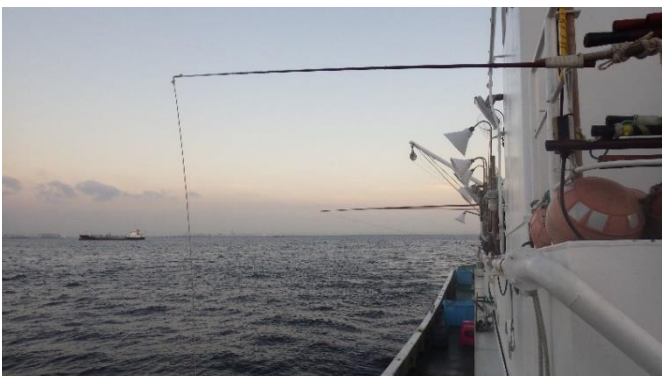
今回乗船したのは「江の島丸」という、三崎港を母港とする漁業調査指導船です。携わったのは「掛かりさば調査」という資源調査を行う業務です。三崎港を深夜 2 時に出港し、アクアラインでおなじみの「風の塔」（アクアラインの海底トンネル通気口）付近に錨泊（いかりを下ろして船をその場にとどまらせること）し調査を実施しました。この調査業務の様子を見て学び、簡単な作業を手伝わせてもらいました。



写真：漁業調査指導船「江の島丸」



→「風の塔」（アクアラインの海底トンネル通気口）



写真：掛かりさば調査

## ◆学び

業務内容の違いはもちろん、乗船した船舶の設備内容や設置場所も、普段乗船している「ほうじょう」とは何かから何まで異なりました。本船に長く勤務している先輩職員のスムーズな作業の様子が印象的であり、同じ県の船舶業務といっても幅広く、様々な設備の船を活用し、携わる業務も多種多様であることを学びました。また、普段経験できない新しい経験をつかむことの楽しさと、自らの知識や技術の向上のためにも、向上心を持って経験を多く積むことの重要性を認識しました。

私はまだ経験の浅い若手職員の立場ではありますが、このたびの経験をはじめとして今後も知識及び技術の向上に努め、貢献していけるよう尽力いたします。